

ASEAN グローバルプログラム に参加して

大西理久

Riku ONISHI

機械システム工学科 2年

1. はじめに

私は、2017年8月29日～9月7日にベトナムのハノイにて企業訪問、工場見学をし、ハノイ工業大学で現地の学生と共にPBL（課題解決型学習）した。シンガポールでは南洋理工大学を訪問、学生との交流をし、現地で働いているビジネスパーソンのお話を聞いて交流をした。プログラムの内容を以下に示す。本稿ではプログラムを受講した目的、企業訪問の内容とそこで得たもの、プログラム全体で感じた事、プログラムを受講したうえでのこれからの目標について記す。

プログラム日程

8月29日	出国
8月30日	ハノイでの企業訪問
8月31日 9月1日	ハノイ工業大学生でのPBL
9月4日	南洋理工大学訪問
9月5日	シンガポールのビジネス パーソンと交流
9月7日	帰国

2. 参加目的

いま日本全体でグローバル化を進めている中で日本で必要とされているグローバルな人材になるためには、海外の文化、価値観などを知り、日本との違いを見つけ、言語の壁を超えることが必要だと考え、このプログラムに参加しようと思った。また、人があまりやりたがらないことを進んで行うことで学修の意識が高まり、就職にも有利だと考えたから

である。また、日本語が通じない環境、日本とは全く生活や習慣、ルールが違う環境で過ごすことで人間として成長できるかもしれないと思ったからである。

3. 企業訪問について

8月30日にベトナムのハノイにあるNTQというモバイルアプリやWEBアプリなどのオフショア開発を行っているソフトウェアアウトソーシングの会社を訪問した。それではまず会議室で会社についての説明動画を見た。その後NTQのお客さんである日本人の方にNTQの特徴や仕事をする上でのメリットを話していただき、質疑応答をした。その後、各グループに分かれて会社の社員さんと交流をした。二つ目の企業は同じビル内にあるRikkei Softという日本の立命館大学、慶應義塾大学を卒業したベトナム人5人が共同で立ち上げたスマートフォンアプリの開発などを行っている会社で、そこでも企業についての説明の動画を見て代表の一人から企業についての説明を聞き質疑応答をした。その後、各グループに分かれて会社の社員さんと交流をした。この二つの企業を訪れて一番驚いたのは、社員さんのほとんどが日本語を流暢に話していたことだ。このプログラムに参加するのに英語の出来は不問だと書いてあったが一番最初の外国の方との交流でまさか日本語で話すとは思ってもいなかった。企業の説明も日本語でしてくださり、企業の説明動画ですら日本語だったので驚いた。Rikkei Softで交流をした時はインターンシップに来ていた学生まで日本語を話していたので凄いと思った。この二つの企業は日本のお客様がほとんどだということを知って、これだけ話せる人がいても不思議ではないのかと思った。オフィスにも工夫がされていて日本庭園風の会議室があったり掲示版の上に日本語で“掲示版”と書かれていたりして日本のお客様を十分迎え入れられるようになっていたと思った。オフィスの見方は日本ともあまり大差はなかった。どちらの企業でも私たち日本人、もしくは日本に教務を持ってく

ださる方がたくさんいて誇りに思えたり、嬉しくも感じた。また親日国というのも領けた。Rikkei Softの代表の方は日本の大学で勉強していたことがある人なので私は質疑応答の際に「日本で影響を受けたことはありますか。」と尋ねた。すると「日本の大学生は全然勉強頑張らない。」とおっしゃった。確かに日本の学生は海外の学生から見たら全然勉強していないのだと思う。この時自分は恥ずかしくなると同時に周りのその他一般人と同じになりたい、がんばるぞという気持ちに駆られた。

この企業訪問で日本とベトナムとの違いなどいろいろなことが知れた。貴重なお時間をさいてまで私たちを受け入れてくれた NTQ と Rikkei Soft の二社の皆様に心よりお礼申し上げます。

4. プログラム全体を通して

このプログラムで自分は大きく成長できたと感じた。まず海外に来たことがなかったので異国の地で10日間暮らして人として大きくなった。最初はベトナムの道のバイクの量に圧倒された。でも、日をおうごとにどんどん道を渡れるようになってきたし街中の臭いも慣れたし、ベトナム最終日には離れたくないという気持ちも出てきた。住めば都とはこういうことを言うんだと感じた。

自分の英語力に関しても気づく点はいろいろあった。英語での読み書き、英語を聞くことに関しては今まで小学校、中学校、高校、大学とやってきたのでなんとかそこそこはできた。しかし、現地の方々と接するとき、自分から話すことが全くできなかつ

た。今まで話すということをしてこなかったけどここまで言葉が出てこないものかと思った。ここでうまく話せていたらもっとこうだったのに、仲良くなれていたかもしれないのと何度も後悔した。

また、外国の環境の違いにおいても驚かされることはたくさんあった。東南アジアの気候は日本の梅雨がもっと暑くなった様で、日本ではほとんど気にしない食事の衛生的なこともいろいろ気を使う必要があり、今まで当たり前だと思っていたことが海外では全然当たり前ではなかった。チップなどの習慣の違いや物貨の安さ、人柄や価値観の違いなど、外国での生活について毎日ワクワクしたし、そういうことに気付くたび、出会うたびに自分が成長していると感ずることができた。

5. 今後の目標

まず第一の目標にしたいことは、英語をもっと勉強して日常生活で支障がないレベルで話せるようになるということだ。一番この海外研修であったらよかったと思ったことだからだ。これを習得できれば会社での就職で役に立つし、入ってからも海外で働くことも可能になるからである。二つ目の目標は海外で働くことだ。今回の研修で海外に関する興味がより湧いたし、自分が刺激をもらえる場所だということに気づいたからだ。これからお金を貯めているような国に自分の足で行ってみたいと思った。この10日間でお世話になった様々な人に感謝を伝えたいです。